

県関係文献紹介

- 但馬・理想の都の祭典実行委員会刊 但馬の生きものたち

B5, 150p. フルカラーページ 領価¥ 2,300 (1994)

上記実行委員会の委託を受けて西宮自然保護協会が兵庫県城崎郡竹野, 香住町, 美方郡浜坂町, 豊岡市の六ヶ所で調査, 観察した結果をまとめたもの。カラー写真やイラストをふんだんに使い非常に立派な出来ばえである。海岸の生きものだから無理ないと思うが昆虫は極めて僅かに紹介されているだけである。瀬戸内側の海岸線が壊滅状況の現在但馬海岸線の昆虫を大いに期待していたのであるがどうも調査者に関心が無かったのか全く期待はずれの出来で残念である。昆虫についての調査者が一人くらいいてくれればと思う。

- 竹野川生物調査研究会編著 私たちの川－竹野川の自然とくらし－(城崎郡竹野町発行)(1994)

B5, オールカラー写真 91p. 領価¥ 2,000

竹野川に生息する植物・藻類・無脊椎動物および脊椎動物まで広範囲にわたり多数のカラー写真をつけて解説する。さらに竹野川にかかわる人の暮らしについて多数のカラー写真を用いて紹介。美しく気持ちの良い本である。昆虫はトンボ, チョウ, コウチュウ(ゲンジボタル, ヘイケボタル他)など紹介されている。

- 但馬文化協会編 但馬風土記(但馬文化協会刊) B5, 123p. 1994.領価¥ 2,000

但馬各地で“理想の都の祭典”が1994年繰り上げられこのイベントに協力し, 意義を持続させようと刊行されたものである。掲載写真の豊富さと鮮やかさに驚かされる。大きく「自然」「人文」にわけられており昆虫は高橋 匡氏が執筆されており但馬を代表する昆虫を美しいカラー写真と共に解説されている。立派な出版に敬意を表する。

- 内海功一(1994)平成5年(1993)年度水生生物調査について

千種川の生態 第21集 B5, 26p.(佐用ライオンズクラブ刊)

平成5年秋に実施された調査結果のまとめである。水棲の昆虫全般の調査がふくまれている。大変貴重なものである。

- 姫路市環境保全課 ホタルの好きな水環境調査. 1994年4月刊 A4, 39p.

表, 裏表紙ともカラー, 他にカラー図版1枚と写真, 図が多く入っている。ホタルの水質調査とホタルそのものの成虫分布調査もある。こうして見ると姫路市近く林田川, 大津茂川, 菅生川, 天川(西から)にはそれぞれホタルが生息しているようでまだまだ之から北の方に行けばホタルは分布していることだらうと思われる。河川を汚さないようにカワニナが分布しておればホタルは見られるわけで河川の管

理に行政のみならず住民の自覚協力がないとむづかしいと思われる。どのようにやって行くのか大変だと思われる。

この貴重な文献を御送り下さった相坂耕作氏に厚く御礼申し上げます。

○ 宝塚の昆虫 VI, VII (宝塚市教育委員会会刊) VI, B5 231p.カラー8プレート, VII, B5 379p.カラー10プレート (1994) 領価VI-¥1,300, VII-¥1,900

とにかく大変な力作である。宝塚に産する昆虫を一種づつ写真を示して解説するのであるから。平成3年から出版が始まりこのVIIで一応完了したことになる。VIはカゲロウ, カワゲラ, ハエなど11目281種がふくまれている。VIIはハチ, アリ, ノミ目と補遺(追加種)となっている。アリは東正雄先生の専門であるから大変詳しく解説されていて写真とか図で良くわかるようにされている。

補遺は甲虫を主として小田中健氏, バック目, カメムシ目, 蛾目は新家勝氏, 他は東正雄先生がまとめておられる。

カメムシ目と甲虫については紹介者にもある程度わかるので少々詳しく紹介しておく。カメムシ目のキュウシュウクチプトカメムシ並びにトビロオオヒラタカメムシは共に兵庫県産としては初めての記録種になるとかんがえられる。

甲虫は78種が追加されているがこの中に兵庫県から初めての記録と考えられる種が次のように8種ある。ミズギワアトキリゴミムシ, チビミズギワコメツキ, ババヒメテントウ, ヒサゴホソカタムシ, ヒメシラオビカミキリ, カタボシクビナガハムシ, クロサワシギゾウムシ, シバオサゾウムシ, カンムリセスジゲンゴロウは従来兵庫県の分布は森, 北山(1993)に示されているが今回宝塚市安倉が記載されているのは具体的な記録としては初めてになるのではないだろうか。記録種の中には厳密に云って宝塚市内産でなく近接地産として示されているのがクロマダラタマムシ, コガネナガタマムシ, クリタマムシ, ナミガタチビタマムシ, ルイスヒラタチビタマムシ, ハイイロチビタマコムシ, アカアシオオアカミキリとある。今回の第7報でもって宝塚の昆虫として2,900種がまとめられていることになり甲虫だけで870種記録されていることになる(兵庫県の甲虫はこの宝塚での兵庫県新記録種8種を加えると3,228種になる)。まだまだ宝塚の甲虫も調べると新しい種が見られることだと思われるがまづ基礎的な調査がこのような立派な形でまとめられたことに心から喜びを申しあげたい。

県関係・学会誌・同好会誌・連絡誌

(IV・1994 - IX・1994)

ハーモニ（人と自然の博物館ニュース）

No.6 および 1994 年もよおし案内 (IV.1994)

No.7 (VI・1994)

IRATSUME (但馬むしの会々誌)

No.18 (V・1994)

混虫ずかん (但馬むしの会連絡誌)

No.43 (IV・1994), No.44 (VI・1994)

兵庫陸水生物 (兵庫陸水生物研究会々誌)

No.44 (IV. 1994)

兵庫陸水生物ニュース

No.2 (VI・1994) No.3 (IX・1994)

兵庫生物ニュース (兵庫県生物学会)

No.17 (IV・1994) No.18 (VII・1994)

自然とともに (県保健環境局環境管理課)

No.25 (IV・1994), No.26 (VII・1994)

姫昆サロンニュース (姫路昆虫同好会連絡誌)

No.102 (IV - 1994) - No.106 (VII・1994)

宝塚の自然 (兵庫県自然保護協会宝塚支部会報)

第8号 (V・1994)

のせ (大阪昆虫同好会連絡誌)

Vol.23, No.5,6,7,8 (IV - VII・1994)